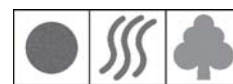


自:2016年4月1日
至:2017年3月31日



NCAJ

National Camping Association of Japan

事業報告書 2016



公益社団法人 日本キャンプ協会

2016 年度事業総括

2016 年度は先人の方々が築いて来られた 50 年の歴史の重みを感じつつ、さまざまな設立 50 周年の記念事業を中心に歩みを進めてきました。

50 周年事業のハイライトは 10 月 28 日から 11 月 1 日にかけて行われた、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会(AOCC2016)でした。開会式には秋篠宮妃殿下をお迎えし、アジア、オセアニア地域を中心とする 20 の国と地域から 402 人の参加者が東京の国立オリンピック記念青少年総合センターに集いました。

また、10 月 29 日には日本キャンプ協会設立 50 周年記念式典を挙行之、関係団体や海外からの参加者が出席する中、来賓の ICF 代表 J. ジョルゲンセン氏が「50 周年という一つの Mile Stone(里程)を刻んだことに敬意を表すとともに、次の里程へ向かって踏み出す新たな準備に期待する」と述べられたことは、記憶に新しいところです。この式典では、キャンプ協会の会員として 30 年以上(1986 年以前に入会された方)継続して登録された 471 名の方々に「永年継続感謝」の証を贈りその功績を讃えました。

その他の 50 周年の記念事業としては、フォトコンテスト、キャンプ白書の発刊、キャンプ安全いろはかるたの作成、協会の将来ビジョンの策定作業等が進められました。

一方、4 月 14 日と 16 日に熊本、大分地方では震度 6 強の地震が発生し、甚大な被害にみまわれました。余震が続く中で、被災者に対する迅速な支援活動が始まり、キャンプ関係者もその技術を活かしてボランティアな働きをすると共に、キャンプ協会としても全国から寄せられた募金を復興支援のために熊本、大分の両県キャンプ協会に託しました。

キャンプの普及・振興は私たちの基本的な願いであり、使命として取り組んでいるものですが、将来ビジョン策定委員会により答申された「ビジョン 2020」の提言によって、より具体的で実践的な方法論の展開を開始しました。すなわち、この年度では「ビジョン 2020」に呼応するかたちで、近年続いている新規会員の減少傾向に歯止めをかけることを狙いとして、指導者養成に関するカリキュラムの変更、テキスト改訂に加え、指導者養成機関としての課程認定団体のための審査基準の改訂を行いました。

そして、今後は各都道府県協会自身が持っている可能性を引き出し、「ビジョン 2020」に示された「つながる力」「たのしむ力」「たちむかう力」が活きた力として発揮出来る仕組み作りに取り組んでいくことになります。

私たちを取り巻く状況は引き続き厳しい中にありますが、目の前にある私たちが出来ることを着実に行っていくことによって、この状況を切り拓いていかねばなりません。そのために、必要なことは「私たちが変わる事」だと確信します。

困難な中にも多くの方々の力に支えられ、2016 年度もさまざまな事業を行うことが出来ました。とりわけ、本会の設立 50 周年を記念して実施した第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会が皆様のお支えのうちに終了したこと、この大会を導いて下さった委員、ボランティアの皆様、都道府県キャンプ協会の皆様に心より感謝を申し上げます。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業１）

この年度の中心的事業は、設立 50 周年記念事業であり、第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会(AOCC2016)の開催を始め、本協会の将来像を可視化するための「ビジョン 2020」の策定、キャンプ白書の発刊、キャンプ安全のための「いろはかるた」の作成、フォトコンテストの実施等々の事業を展開した。

また、例年同様に、広報誌『CAMPING』の発行やウェブサイト、メールマガジン等を通じて、情報発信に努めたほか、キャンプインフォメーションセンターでの相談事業や、各種プログラム指導等も積極的に行った。

1. 設立 50 周年記念事業

設立 50 周年の複数の記念事業を円滑に行うため組織された組織委員会のもとに、実働グループとしての実行委員会・作業部会が効果的に機能して各分野のプログラムが展開された。

また、全国各地で行われる都道府県キャンプ協会が実施するすべての事業も記念事業と位置づけ、記念バナーの使用を呼びかけたほか、記念 T シャツ等を作成し具体的なイメージの共有を図った。

(1) 日本キャンプ協会設立 50 周年式典を挙行

日本キャンプ協会設立 50 周年式典をアジア・オセアニア・キャンプ大会の期間中に挙行了。当日は AOCC2016 参加者も式典に参加し、国際色豊かな式典となった。

日 時：10 月 29 日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

この式典では、星野敏男会長が式辞を、来賓 ICF 会長 J. ジョルゲンセン氏が祝辞を述べられた。また、これに続き日本キャンプ協会に会員として 30 年以上継続して登録し、本会の活動を支えて下さった 471 人の方々に感謝状を贈呈したほか「キャンプの魅力」フォトコンテストの表彰、協会の将来展望を示す「ビジョン 2020」が今井正裕委員長から出席者に紹介された。



表彰式に参列された永年継続会員の皆様

(2) 第6回アジア・オセアニア・キャンプ大会の実施

「アウトリーチ 一手をさしのべるキャンプ」という大会テーマのもと、アジア・オセアニアを中心とした、20の国と地域から402人の参加者を得て、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催した。



開会式でおことばを述べられる秋篠宮妃殿下

開会式には秋篠宮妃殿下のご臨席をあおぎ「この大会が、参加された人々の経験や考え方を分かち合い、キャンプの一層の可能性をひらく時間となることを期待します」というおことばをいただいた。

なお、この事業はスポーツ振興基金助成対象事業として実施し、大会終了後に報告書を400部作成した。

1) プレプログラム

10月23日(日)～28日(金) ICDC トレーナーコース

参加者数及び出身国属性 合計12人

日 本	1 人	トルコ	2 人
シンガポール	2 人	中 国	7 人

10月24日(月)～28日(金) ICDC (国際キャンプディレクター研修)

参加者数及び出身国属性 合計20人

日 本	12 人	マレーシア	1 人	カンボジア	1 人	カナダ	2 人
中 国	2 人	モンゴル	1 人	フィリピン	1 人		

10月26日(水)～28日(金) 国際キャンプ連盟(ICF)理事会

出席者数 18人(ICF理事とその同伴者)



AOCC2016 大会報告書

2) アジア・オセアニア・キャンプ大会(AOCC2016)

10月28日(金)～11月1日(火)

①総参加者数：402人(招待含む)

うち 全日程参加 175人 3日間参加 54人 2日間参加 75人 1日参加 98人

スタッフ(組織委員、実行委員、ボランティア)：103人

オーストラリア	7 人	マレーシア	4 人	ロシア	36 人	ベネズエラ	2 人
カンボジア	1 人	モンゴル	8 人	シンガポール	7 人	ベトナム	1 人
カナダ	7 人	ナイジェリア	4 人	タ イ	1 人	ウクライナ	1 人
中 国	45 人	パキスタン	3 人	トルコ	5 人	ペルー	2 人
香 港	10 人	フィリピン	1 人	アメリカ	9 人	日 本	248 人

②スケジュール概要

	10月28日(金)	10月29日(土)	10月30日(日)	10月31日(月)	11月1日(火)
午前		朝のミニ プログラム 開会式 記念講演	朝のミニ プログラム 基調講演 2 分科会 2	朝のミニ プログラム 分科会 4 基調講演 4	チェックアウト ポストコンGRES ツアー
午後	受付 チェックイン	基調講演 1 分科会 1 集いの時間 NCAJ 設立 50 周年式典	基調講演 3 分科会 3	分科会 5 AOCF 総会 閉会式	
夜	ウェルカム パーティ	オープニング パーティ	ナイト・オン ザ・タウン	フェアウェル パーティ	

③研究発表・実践報告・ワークショップ等

区分 / 日(曜)	29日(土)	30日(日)	31日(月)	合 計
記 念 講 演	1	—	—	1
基 調 講 演	1	2	1	4
研 究 発 表	—	10	2	12
ワークショップ	6	5	3	14
実 践 報 告	3	6	2	11
ポスター 発 表	1	—	3	4
集いの時間 (都道府県キャンプ協会)	6	—	—	6
オリジナルセッション	1	—	—	1
特別セッション	—	3	—	3
合 計	19	26	11	56



④ポストコンGRESツアー

11月1日(火)～3日(木) 1泊2日または2泊3日

○東京 YWCA 野尻キャンプ訪問 (9 人) ○山梨 (11 人) ○日光 (2 人)

⑤主催・共催・後援等

主 催：公益社団法人日本キャンプ協会(日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業組織委員会)

アジア・オセアニア・キャンプ連盟(AOCF)

第 6 回 アジア・オセアニア・キャンプ大会組織委員会

共 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

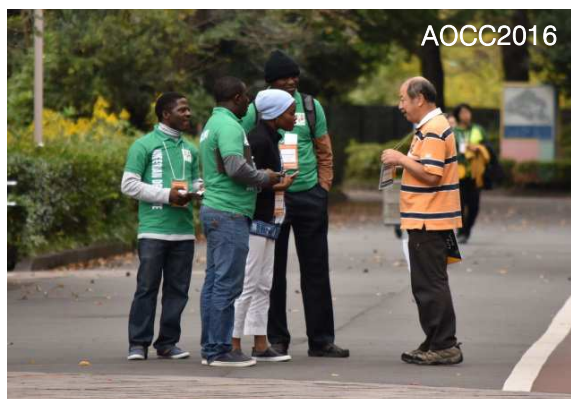
後 援：国際キャンプ連盟(ICF)/ 文部科学省スポーツ庁/ 外務省

公益社団法人ガールスカウト日本連盟/ 一般社団法人日本オートキャンプ協会/ 日本
野外教育学会/ NPO 法人自然体験活動推進協議会/ 公益社団法人日本オリエンテーリ
ング協会/ 公益財団法人日本レクリエーション協会/ 公益財団法人東京 YWCA/ 公益
財団法人日本サイクリング協会/ 一般財団法人日本ユースホステル協会/ 日本アウト
ドアネットワーク/ 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会/ 公益財団法人ハ
ーモニイセンター/ 一般社団法人日本ウオーキング協会/ 公益財団法人日本 YMCA 同
盟/ 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

協 力：都道府県キャンプ協会/ 一般社団法人教育支援人材認証協会

助 成：スポーツ振興基金助成事業

協 賛：アイコム株式会社/ 株式会社阿吽/株式会社ウィンパル/ 有限会社エイコー東海/ 株式会
社オカモトヤ/ 公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団/ 株式会社グリーンハウス/
広伸防災株式会社/ サントリーホールディングス株式会社/ 東海プラント株式会社/ 株
式会社ニュートラスト/ 奥鬼怒温泉郷八丁湯/ はつかいちキャンプ協会/ ホシノ自動車
整備工場/ 株式会社ミズカミ/ 三菱商事株式会社/ 未来テクノ株式会社/ ヤマシタコー
ポレーション/ 理想科学工業株式会社



⑥運営スタッフ

○組織委員会

委 員 長：星野敏男

副委員長：師岡文男

委 員：田中壮一郎/ 島田 茂/ 川戸れい子/ 奥島孝康/ 浅野万里子/ 山西哲郎/ 井上成美
加藤元彦/ 水野宰/ 小西亘/ 明瀬一裕/ 西澤信雄/ 永吉宏英/ 佐藤初雄/ 斉藤泰幸
針ヶ谷雅子/ 藤枝隆/ 吉田大郎

監 事：村松真哉/ 宗像弘行

顧 問：石田易司/ 田中祥子

アドバイザー：田中祥子/ 高橋伸/ 高野孝子

○実行委員会

委 員 長：針ヶ谷雅子

委 員：岡田成弘/ 小森伸一/ 濱谷弘志/ 渡邊仁/ 富山浩三/ 多田聡/ 甲斐知彦/ 柳下史織
青木康太朗/ 伊原久美子/ 藤江龍/ 熊澤桂子/ 小林秀雄/ 村井伸二/ 清水幸一
花田道子/ 江川潤/ 野澤順子/ 久野愛子/ 鈴木かなえ/ 加藤綾音/ 水村賢治
太田正義/ 中神真紀子/ 前澤桂子/ 工藤福成/ 大天嘉行/ 教育人材認証協会

(5)「キャンプ安全 いろはかるた」の作成

安全なキャンプを願って毎年行っている「キャンプ安全キャンペーン」の一環として募集してきた「キャンプ安全標語」の入賞作品に、ヨシズミアキラさん（イラストレーター）が絵札を描き、いろは順に48枚のかるたを作成した。

また、日本キャンプ協会のウェブサイトに掲載し、誰でもが自由にダウンロードし、活用してもらえるようにした。

キャンプの安全 いろはかるた ダウンロードサイト

URL : <http://www.camping.or.jp/2017/01/post-1568.html>



(6)「キャンプの魅力」フォトコンテストの開催

50周年記念事業の一環として、「キャンプの魅力」フォトコンテストの作品を募集し、70作品の応募があった。写真家の渡辺直史さんに審査委員長をお願いし、グランプリ賞1作品、優秀賞4作品、50周年特別賞2作品、入選5作品の入賞者にそれぞれ賞を贈り表彰を行った。

また、10月28日(金)～11月1日(火)の期間に入賞作品の展示を行った。

(7) 50周年記念事業を全国に広げるための取り組み

日本キャンプ協会ウェブサイトとは別に、設立50周年記念ウェブサイトを設け、記念事業のお知らせや日本キャンプ協会の歴史を紹介した。また、50周年ロゴを貼ったボードを作成し、お祝いメッセージ・写真の提供にご協力いただき、掲載した。

この年度に行う事業は、都道府県キャンプ協会の行うものも含めてすべてを記念事業と位置づけて実施した。事業パンフレットに記念バナーの掲載を呼びかけ、オリジナルクリアファイル(15,000枚作成)を各事業の際、参加者に配布したほか、都道府県キャンプ協会名入りのワッペン付き記念Tシャツを作成・販売し、それぞれの事業で50周年事業をアピールすると共にキャンプ協会に対する認知度の向上を図った。



50周年記念祝いメッセージ写真

2. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、ウェブサイトやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努めた。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に応じた。

(1) 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報やキャンプの現場で役立つさまざまなスキル、本会の事業内容等を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した。また、エッセイではこれまで日本キャンプ協会に深く関わってこられた方々の原稿を掲載し、50年の歩みを振り返ることが出来た。

発行部数：各号 約 12,000 部

号 数	特 集
170	設立 50 周年を祝おう！
171	2015 年度事業報告 - Annual Report 2015
172	地域とのつながり
173	キャンプを写す
174	設立 50 周年事業報告
175	スペシャルニーズのための キャンプ



会報誌 CAMPING

(2) ウェブサイトを通じた情報発信

本会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知や報告、本会の団体情報などの各種情報を、ウェブサイトを通じて提供した。

URL：http://www.camping.or.jp

閲覧者数：のべ 198,645 人

(3) メールマガジン「CAMPING News」の発行

会員等の活動への参加機会を増やすことを目的に、BUC事業を中心とする講習会やイベントの情報、助成金情報などを提供するメールマガジンを発行した。

発行回数：12 回（毎月 1 回発行）

送 信 数：約 3,000 通（発行時により変動）

※別途 PDF 版をウェブサイトで公開



メールマガジン

(4) キャンプインフォメーションセンターの運営

キャンプに関する相談窓口として、電話や電子メールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、マスコミ等の取材対応を行った。この年度から、クライアントからの依頼を受けて企画運営指導を行う事業も積極的に受託し、日本キャンプ協会の認知度向上を図った。

受託案件一覧

クライアント	案 件	内容・役割	日 時	担 当
Kicks Mix	Kicks Mix Summer Camp	企画運営指導	7 月	林
経済産業省	政府インターネット テレビ監修・出演	安全啓発動画出演	7 月	前田
文部科学省	イベント出展協力	子ども向け事業 ブース出展	8 月	林 五月女
文教大学	教育学科キャンプ実 習	実習指導	8 月	林
講談社	女性向け雑誌素材提 供	雑誌内で使用する 写真の提供	8 月	林
CS 番組制作会社	番組監修・出演	番組内での キャンプ指導・監修	9 月	前田
三菱商事	ご縁コミュニティ アウトドアサークル	企画運営指導	11 月～1 月	林 五月女
CM 制作会社	CM 監修	CM 使用映像の スーパーバイス	12 月	林
リクナビ	広報協力	起業家向け事業 広報協力	2 月	林 五月女
Rプロジェクト	コンサルテーション	キャンプ場の設計	3 月	前田 吉田



キャンプインフォメーションセンター受託事業

3. 自然体験活動の場の提供と施設の運営【静岡県立朝霧野外活動センター】

日本キャンプ協会が 50 周年を迎えた今年度は、日本キャンプ協会グループが朝霧野外活動センターの指定管理者として運営を始めてからちょうど 10 年となり、朝霧野外活動センターとしても節目の年であった。

9 月 24 日に施設に大きな落雷があり、電源設備の一部、消防設備及び電話設備等が大きな被害を受け、施設の運営が出来なくなってしまったが、消防署等関係機関の協力によって 1 週間で運営を再開することが出来たため、年間を通じてみると、団体利用の受入れ、主催事業、地域との連携等、順調な 1 年だった。

指定管理者外部評価委員会からは今年度も高い評価をいただき、特に「青少年教育施設としての目的にあった活動の展開」という項目において、A+ という非常に高い評価を受けることが出来た。

プラネタリウムと星空探訪・天体観測



(1) 地域との協働

平成 6 年の朝霧野外活動センターの全面改築を契機として、センター周辺の酪農家が集まり、センターの利用者を主な対象として酪農体験等のプログラムを提供することを目的に設立した「あさぎり高原農業体験組合」が、今年度設立から 20 年を迎えた。これを記念して、組合とセンターが協力して「あさぎり高原農業体験組合設立 20 周年記念事業・夢は牛のお医者さん自主上映会」を開催し、センター周辺の酪農家や住民を中心に 82 名の参加者があった。

映画上映の前後で、朝霧高原の酪農地帯を作り上げた開拓 1 世の方が当時の様子を語り、3 世 4 世の方がそれを聞いて自分たちが暮らす地域への理解や愛着をさらに深め、酪農業を営まない人々にとっては、地域の基幹産業への理解を深めることになり、地域の魅力を再確認する大変よい機会となった。また、地域の方にセンターの活動や施設を知ってもらえる機会にもなった。

(2) 新しい野外活動プログラムの開発

3 月には新しい主催事業である「プラネタリウムと星空探訪」を開催した。この事業は、センターにあるプラネタリウムとキャンプのノウハウを活用して、星空を楽しむさまざまな方法を提案し、楽しんでもらうことを通じて、親子で天体に興味を持つきっかけとなることを目指して実施した。野宿をしながら星空を楽しもうという選択プログラムは大変好評で、参加者の 3 割ほどの親子が初めての野宿に挑戦し、寝袋からおとめ座やしし座等の春の星座や木星を楽しむ姿見られた。

(3) 健全な施設運営

9月の落雷被害により、復旧のための修繕費用が施設運営を大きく圧迫したため、その他の修繕をできる限り職員の手で行い、運営費の捻出に努めた。また、施設を挙げて節電に取り組んだ結果、今年度の電気料金と電力使用量はこの10年で最も少なく抑えることが出来た。同様に、空調設備と浴室設備の運営の効率化を図った結果、白灯油の年間給油量を平成25年度の約半分まで抑えることが出来た。これらにより節約出来た運営費の一部を使って、今年度末までに施設内のほぼすべての照明をLEDに交換することが出来、今後の安定的な運営基盤を築くことが出来た。

＜主催事業＞

青少年自然体験事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう 富士山～	7月 3日	小学校 5～6年生	62人
	8月 6日～14日	中学校 1～3年生	

野外教育指導者養成事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
野外活動プログラム実習	4月 22日～23日	利用団体の担当者 及び指導者	52人
	11月 11日～12日		4人
長期キャンプ 指導者養成講習会	6月 18日～19日 7月 9日～10日 8月 6日～14日 10月 15日～16日	大学生	8人
野外活動指導者養成講習会	2月 10日～12日	野外教育に 興味のある人、 青少年団体の指導者、 教育関係者	28人

県民自然体験事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
ちょっといい春感じませんか	4月 29日～30日	家族・小グループ	135人
朝霧高原 トレイルランニングレース	9月 10日～11日	家族・小グループ	567人
すてきな秋をあなたに	10月 1日～ 2日	家族・小グループ	110人
オリエンテーリング in 朝霧	11月 26日～27日	家族・小グループ	318人
スケートキャンプ	12月 9日～10日	家族・小グループ	52人
	1月 13日～14日		49人
	2月 17日～18日		53人
	3月 3日～4日		53人
223(ふじさん)ウォーキング	2月 25日	家族・小グループ	104人
プラネタリウムと星空探訪	3月 10日～11日	家族・小グループ	71人
スケートフェスティバル in あさざり	11月 6日	家族・小グループ	87人
	3月 5日		187人

施設開放事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
富士あさぎり農業体験組合 20周年記念映画上映会	4月24日	周辺の小学校(5校)に通う児童とその家族	82人
朝霧カーニバル	11月6日	どなたでも	1,468人
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計12日 1,048人
スケート一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計22日 3,399人
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日または木曜日	周辺の小学校(5校)に通う児童とその家族	計20日 359人

社会問題に対応した事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
ホッとキャンプ	3月7日～10日	不登校児童・生徒 引きこもりがちな青年	7人

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
走れば山が美しくなる	通年 事業開催時	事業参加者	702人

利用者数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014	2,895	6,979	8,491	9,449	8,607	9,261	6,853	7,927	2,926	2,396	2,255	5,624	73,663
2015	2,689	8,363	6,790	11,772	9,439	10,002	6,333	5,896	3,272	2,751	2,721	5,121	75,149
2016	2,915	6,756	8,337	10,921	10,278	8,066	5,803	5,213	3,420	2,614	2,727	6,195	73,245
前年比	226	-1,607	1,547	-851	839	-1,936	-530	-683	148	-137	6	1,074	-1,904

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014	2,709	4,129	5,457	6,049	5,061	5,002	5,154	6,547	2,367	1,905	2,095	4,742	51,217
2015	2,636	5,007	4,183	7,109	4,506	5,754	5,190	5,657	2,793	2,583	2,396	4,598	52,412
2016	2,744	4,581	5,639	6,794	5,636	4,714	4,982	4,984	3,006	2,450	2,475	5,755	53,760
前年比	108	-426	1,456	-315	1,130	-1,040	-208	-673	213	-133	79	1,157	1,348

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014	186	2,850	3,034	3,400	3,546	4,259	1,699	1,380	559	491	160	882	22,446
2015	53	3,356	2,607	4,663	4,933	4,248	1,143	239	479	168	325	523	22,737
2016	171	2,175	2,698	4,127	4,642	3,352	821	229	414	164	252	440	19,485
前年比	118	-1,181	91	-536	-291	-896	-322	-10	-65	-4	-73	-83	-3,252

利用団体数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014	16	51	60	67	63	49	38	40	46	49	44	69	592
2015	14	54	53	78	68	70	39	46	53	53	43	74	645
2016	24	44	63	83	76	52	35	39	56	48	42	79	641
前年比	10	-10	10	5	8	-18	-4	-7	3	-5	-1	5	-4

＜本館棟＞

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014	13	32	35	41	40	26	26	36	37	41	41	58	426
2015	11	34	27	50	40	38	27	42	46	48	37	64	464
2016	18	26	36	53	50	29	27	34	46	45	38	70	472
前年比	7	-8	9	3	10	-9	0	-8	0	-3	1	6	8

＜キャンプ場＞

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014	3	19	25	26	23	23	12	4	9	8	3	11	166
2015	3	20	26	28	28	32	12	4	7	5	6	10	181
2016	6	18	27	30	26	23	8	5	10	3	4	9	169
前年比	3	-2	1	2	-2	-9	-4	1	3	-2	-2	-1	-12

平成 28 年 (2016) 度 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会評価結果

総合評価 A [9 段階評価 A⁺, A, A⁻, B⁺, B, B⁻, C⁺, C, C]

評 価 項 目		評価ポイント		
		28 年度	27 年度	26 年度
評 価 の 総 括		A	A	A
項 目 別 評 価	①少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	A	A ⁻
	②少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A	A	A
	④学校利用への適切な対応	A	A ⁻	A ⁻
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A ⁺	A ⁻	A

(参考)

9 段階評価ポイント記号の意味

A	十分満足できる	B	おおむね満足できる	C	努力を要する
---	---------	---	-----------	---	--------

* 心象として ABC に対して上回るか下回るかにより、必要に応じて＋の付加記号を付ける。



朝霧サマーキャンプ



朝霧ロゲイニング（走れば山が美しくなる）

4. 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

(1) 会報同封サービスの提供

各都道府県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、都道府県協会の会報等を「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数 25 協会 のべ発送点数 40,142 点

(2) メールアドレス及びウェブサーバーの提供

各都道府県協会にメールアドレスとウェブサーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、情報交換を容易に行えるよう支援した。

5. 国外の情報の収集と提供

キャンプに関連する情報の収集を行うとともに、国際キャンプ連盟メンバーを中心に情報交換を深め、適宜 CAMPING やメールマガジン、Monthly Report 等を通じて情報提供を行った。

アメリカキャンプ協会年次大会

日 程：2月21日(火)～2月24日(金)

会 場：アルバカーキ

(アメリカ・ニューメキシコ州)

参加数：約 1,200 人

(職員 1 名を派遣、

その他日本からの参加者 4 名)



6. 安全啓発キャンペーン

キャンプを楽しく有意義な活動とするために、一人ひとりの安全意識を高めることを目的とし、7月第3日曜日に定める「キャンプ安全の日」を中心に7月・8月に安全啓発キャンペーンと定め、安全の啓発を行った。

キャンプ安全の日：7月17日(日) ※毎年7月第3日曜日

キャンペーン期間：7月1日(金)～8月31日(水)

また、広く一般の方々にも野外活動での安全を考えていただく機会とするため、安全標語の募集を行った。「キャンプの安全 いろはかるた」作成のため、「あ」から「す」までの12文字を頭文字とした標語を募集した。最優秀作品は、2017年度会員証裏面に記載された。

安全標語応募点数：1,855 点

最優秀作品：「危険箇所 こどもの目線で 要チェック」 矢沢 秀子さん

優秀作品：「ゆとりある 計画立てて 安全に」 佐々木 美知子さん ほかに入賞 10 点

7. 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布

安全で楽しいキャンプを普及させるため、一般財団法人日本宝くじ協会より助成を受けて全国の都道府県キャンプ協会に対してテントの配布を行った。これらのテントは都道府県協会が主催する各種講習会、指導者研修、キャンプなどで幅広く活用されるとともに、都道府県協会を通じて、加盟団体などが行うイベント等にも貸し出しされ、有意義に使用された。

配布件数：36 都道府県キャンプ協会

5 種 97 張



8. 他団体との共同事業の実施

関係する他団体と共同で事業を行い、野外教育や青少年教育に携わる団体間での課題の共有や後進の育成に努め、交流を深めた。

(1) 「出会いと体験の森へ」事業

日本キャンプ協会、日本 YMCA 同盟、東京 YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟という「人を育てるキャンプ」に携わる団体が協力して「出会いと体験の森へ」事業を行った。第6期に当たる今年度は事業を行わず、第7期以降のあり方について検討した。

(2) 「中青連ラウンドテーブル」事業

中央青少年団体連絡協議会世話人会が中心となって企画する、「中青連ラウンドテーブル」実行委員会に参画し、関係する青少年育成団体に向けた研修会の開催に協力した。

中青連ラウンドテーブル・新年互礼会

日 程：1月11日(水)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加数：ラウンドテーブル32名、新年互礼会93名

9. 研修・普及に関する事業改良の検討

キャンプの活動を発展させ、広めていくための取り組みは、取捨選択、改良を積み重ねながら継続的に行われてきた。しかし、ここ数年を見るだけでも、キャンプに関連する新しい課題、テーマがいくつも生じるとともに、情報伝達のための手段は一層多様化している。こうした変化に対応し、より効果的な事業運営を行うため今年度は、将来ビジョン策定委員会を設けて検討を進め、2020年の目標を定めた「ビジョン2020」を策定した。

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業２）

キャンプの有用性・有効性を最大限に発揮させ、人々の心身の発展に寄与することの出来るキャンプ指導者の養成は、本会発足以来の大切な事業である。

この年度は、旧資格から新資格への移行措置が最終年度となり、キャンプディレクター養成テキストの改訂作業も最終段階となった。また、有資格者のブラッシュアップを一層進めるため、BUC 事業の承認・実施をした。

1. 指導者養成講習会

キャンプインストラクター養成講習会（課程認定 A・B・C 団体による実施）

都道府県キャンプ協会(A 団体)による養成数	510 人
課程認定校・社会教育団体等(B・C 団体)による養成数	1,831 人
合 計	2,341 人

- ・2,700 人の養成目標に対し 2,341 人の養成が行われ、達成率 86.7%であった。
- ・昨年の 2,512 人と比較し、6.8%の減であった。

キャンプディレクター2級養成講習会(A 団体による実施)

主催県	日 程	受講数	会 場
岡山県	9月17日(土)～19日(月祝)	6 人	森の育ての親・建部 富沢構造改善センター(岡山市北区)
北海道	11月4日(金)～6日(日)	8 人	札幌市青少年山の家(札幌市南区)
東京都	11月18日(金)～20日(日)	11 人	ヒゲッチキャンプ場(埼玉県児玉郡)
群馬県	1月7日(土)～9日(月祝)	4 人	県立東毛青少年自然の家(群馬県太田市)
奈良県	1月7日(土)～9日(月祝)	6 人	国立曽爾青少年自然の家(奈良県曽爾村)
福岡県	1月20日(金)～22日(日)	8 人	北九州市立玄海青年の家 (福岡県北九州市)
大阪府	2月17日(金)～19日(日)	3 人	吉野宮滝野外学校(奈良県吉野町)

キャンプディレクター2級養成講習会(B 団体による実施)

団体名	受講数
北翔大学	13 人
頌栄短期大学	4 人
国際自然環境アウトドア専門学校	6 人
常葉大学	1 人
桃山学院大学	3 人
仙台大学	6 人
大阪体育大学	2 人

キャンプディレクター1級養成講習会

日程	受講数	会場
11月25日(金)～27日(日)	18人	国立オリンピック記念青少年総合センター

キャンプディレクター1級検定会

日程	受検数	会場
1月21日(土)～22日(日)	12人	国立オリンピック記念青少年総合センター
2月11日(土)～12日(日)	7人	神戸市青少年会館（兵庫県神戸市）

2. 指導者の審査・認定及び更新

資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級※	キャンプ ディレクター1級
4月7日		76 (4 : 2)	7
4月22日		3 (1 : 0)	1
5月13日		4 (2 : 2)	
6月10日		2 (1 : 1)	2
7月19日		10 (0 : 3)	1
9月22日		10 (7 : 2)	
10月5日		10 (9 : 1)	
11月10日		4 (4 : 0)	
1月6日		1 (0 : 0)	
1月29日		7 (0 : 0)	
3月27日		32 (0 : 0)	7
合計(人)	2,341	159 (28 : 11)	18

※1 キャンプディレクター2級の数字には、2級プログラムディレクター及び2級マネジメントディレクターからの移行分を含む。

※2 括弧内の数字は、D2移行者数（PDより移行：MDより移行）



キャンプディレクター1級検定会（神戸会場）



キャンプディレクター2級養成講習会（北海道）

指導者資格の更新

キャンプ インストラクター(CI)	キャンプ ディレクター2級(D2)	キャンプ ディレクター1級(D1)	合計(人)
4,311	1,626	1,060	6,997

※ 2015年度 CI : 4,545 人、D2 : 1,647 人、D1 : 1,108 人、合計 7,300 人

課程認定団体数

A 団体	B 団体	C 団体
46	117	6

課程認定団体の審査・認定

審査会日程	新規課程認定団体名
6月10日	B 団体 大原スポーツ公務員専門学校 甲府校 (山梨県)
6月10日	B 団体 大原簿記医療秘書公務員専門学校 町田校 (東京都)
6月10日	B 団体 東北文教大学人間科学部 子ども教育学科 (山形県)
7月19日	B 団体 日本ウェルネススポーツ専門学校 (東京都)
9月22日	B 団体 日本福祉大学

3. キャンプディレクター2級移行措置の終了

2014年度より進めていたキャンプディレクター2級プログラムディレクター(PD)とマネジメントディレクター(MD)の2級への移行措置が2016年9月をもって終了した。

PDからの移行者数 : 86 人 (移行前 103 人) MDからの移行者数 : 24 人 (移行前 84 人)
CIへの移行者数(移行措置未申請) : 32 人

4. 課程認定団体研修会の開催

課程認定団体指導者養成担当者を対象に、カリキュラムにのっとった指導者養成が行えるよう研修を実施した。この年度は、課程認定団体で養成が行えるようになったキャンプディレクター2級養成に重点を置いた説明を行った。実際に養成を行っている団体の事例を紹介し、グループに分れて話し合い、交流を深めた。

日 程 : 6月4日(土)
会 場 : 国立オリンピック記念青少年
総合センター(東京都渋谷区)
参加者 : 32 人(29 団体)



課程認定団体研修会

5. 指導者養成のためのテキストの発行

指導者養成に用いるテキスト「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売管理を行った。

「キャンプディレクター必携」については内容を見直し、キャンプディレクター1級・2級の範囲を明確化した2017年度改訂版の執筆・編集を行い、発行した。



改訂版テキスト

6. 各都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業の承認・支援

スキルアップと交流の機会として本会及び都道府県協会が実施する事業のうち、所定の条件を満たすものを BUC (Brush Up & Communication) 事業として認定し、必要に応じて事業実施のための支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数※
2016	129	1,288 人	45
2015	132	1,454 人	42
2014	128	1,480 人	44

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む



Brush Up & Communication 事業

7. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

キャンプ普及の直接的な担い手である都道府県キャンプ協会の活動を支援する目的で研修会を実施した。事務担当者のマニュアルとなる「都道府県キャンプ協会運営のてびき」を発行・配布したほか、総会報告、設立 50 周年記念事業に関する説明などを行った。

第 1 回 日 程：6 月 5 日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：73 人

第 2 回 日 程：3 月 12 日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：75 人

8. 公認資格取得機会拡大につながる取り組み

日本キャンプ協会公認指導者資格の取得機会を拡大するため、公認指導者養成課程認定団体のための審査基準を見直し、課程認定団体数の増加に向けた取り組みを進めた。

9. 指導者養成制度改良に向けた検討

現行の指導者養成カリキュラムは、2006 年から運用開始し、10 年を迎えた。この間のキャンプを取り巻く社会情勢の変化や、都道府県協会がキャンプディレクター2 級の開催を行えるようにする制度上の変更などに対応するため、キャンプディレクター養成テキストの『キャンプディレクター必携』の改訂を行った。また、合わせてキャンプディレクター2 級養成講習会のてびきの作成も作業を進め、2017 年度から運用していく。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな実践について知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。

この年度は、キャンプの研究や実践を持ち寄り、参加者同士で学び合う機会を提供し、冊子の発行などを通して、重層的な情報提供が行われるように努めた。

1. Camp Meeting in Japan 2016 ～第20回日本キャンプミーティング～

さまざまな地域、分野、立場で活躍しているキャンプ関係者が、日頃の実践の成果を発表し、参加者間で相互に情報交換、情報共有が出来る交流の場として開催した。

この年度は、意見交換を充実させることを意図し、従来の口頭発表を廃止し、ポスター発表とワークショップ発表、全体会（講演）という新しいかたちでの実施を試み、参加者から好評を得た。

日 程：6月4日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

発表者：26人

参加者：87人

内 容

〔講演会〕

つながりを生み出すインプロ（即興演劇）

講師：高尾 隆さん（東京学芸大学）



[ポスター発表]

研究・実践発表 17 題

(敬称略)

国立青少年教育施設における冒険教育プログラムの取組 ―ジュニアチャレンジ淡路島一周― (蓬田高正)
キャンプ体験が小中学生のアサーティブに及ぼす影響 (久田竜平)
大学キャンプ実習におけるストレスサーとストレスコーピングに関する研究 (高橋宏斗)
体育授業における ASE の効果について (田淵洋勝)
森のようちえん活動が幼児の運動能力に及ぼす影響 (大関久仁)
わが国におけるリープ・ノー・トレイスのこれまでの取り組みと今後の展望について (西島大祐)
知的障がい者に対する日常生活に変化を作り出す地域生活支援 ―ユニバーサルキャンプを通して― (佐東治)
チャレンジキャンプ 2015～リヤカーで小豆島一周 110 kmの旅～ (徳田真彦)
千葉県少年自然の家主催事業「セブンデイズキャンプ」の実践報告 (鶴岡義久)
オフザピッチトレーニングとしての雪上野外研修プログラムの実践 (吉沢直)
保育内容研究と自然・生活・あそび (遠藤知里)
大学授業での長期バックカントリーキャンプ (濱谷弘志)
ろう・難聴の子どもキャンプに参加した聞こえるスタッフのふりかえり～デフキッズキャンプの実践から～ (多田聡)
町田ゼルビアにおける自然体験活動の実践報告 (松川胡由里)
2015 年多摩の自然学校 (宮内友佳)
無人島キャンプの実践 (飯田輝)
米国大陸横断体験記 (佐伯るり子)

団体・活動紹介等 5 題

(敬称略)

栃木県キャンプ協会事業報告
北海道キャンプ協会事業報告
岩手県キャンプ協会事業報告
第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会(NCAJ50 周年記念事業)へのお誘い
Japan Outdoor Leaders Award のご紹介

[ワークショップ発表] 4 題

キャンプで美味しい！コーヒーの入れ方教室
フィールドワーカーのための危険生物“ハチ”“ヘビ”対策セミナー&交流会 (西海太介)
私たちはリスクに対する説明責任をどう果たすのか How do we achieve accountability for risk? (岡村泰斗)
環境教育プログラム「プロジェクト・ワイルド」を体験してみよう (関隆嗣)

抄録集：1,500 部発行 参加者及びキャンプディレクター1 級指導者へ配布

2. 定期刊行物「キャンプ研究」

キャンプの実践報告やキャンプに関する研究報告を発表する場として「キャンプ研究 第 20 巻」を発行した。キャンプディレクター資格保有者に配布するとともに、PDF 版をウェブサイトで公開し、多くの人が読めるようにした。

実践報告

野外救急法を取り巻く最新の動向（岡村泰斗・高山昌紀）
ろう児のキャンプにおける親プログラム実践の成果と考察 （廣瀬彩奈・久保香菜子）

講演録

第 6 回アジア・オセアニア・キャンプ大会 基調講演 －Organized Camping in Japan－（星野敏男）
--

特別寄稿

組織キャンプの先駆者 小西孝彦が残したもの（石田易司）



キャンプ研究第 20 巻

発行日：2 月 15 日（水）

発行部数：3,100 部（別途 PDF 版をウェブサイトで公開）

PDF：http://www.camping.or.jp/JJCS202017.pdf

3. Café de CAMP（カフェ・デ・キャンプ）

若手キャンプ指導者を中心に、講師を囲んで意見交換をしたり、アクティビティ体験をしたり、相互に事例発表等を行ったりする、交流と学び合いの場として、計画を立てた。しかし、国際大会の開催や実施回数の減少が影響してか、参加者が思うように集まらなかった。

回	日程	テーマ	参加者
1	6 月 12 日（日）	キャンプがつなぐ世界の WA	中止
2	8 月 27 日（土）	動きを切り取る撮影法（講師：渡辺直史さん）	6 人
3	8 月 27 日（土）	自然アクティビティ指導法	中止

※ 会場は、すべて東京・国立オリンピック記念青少年総合センター（NYC）



Café de CAMP（動きを切り取る撮影法）

4. Special Needs Camp に関する調査研究とその周知に関する事業

Special Needs Camp(スペシャル・ニーズ・キャンプ)とは、特別な配慮を必要とする人々のためのキャンプであり、大切な人を亡くしたキャンパーを対象とするグリーフキャンプや障がい児(者)キャンプ、病児キャンプ、引きこもりがちな青年たちのキャンプなどを指す。キャンプを通じた社会貢献を考えた場合、Special Needs Camp は欠くことの出来ないテーマの一つである。

この年度は Special Needs Camp Network(SNCN)の活動を支援するとともに、会報誌等で情報の共有を図った。

(1) Special Needs Camp Network (SNCN) との連携

新たに立ち上がった Special Needs Camp Network(SNCN)と連携し、10月30日に行われた決起集会の会場を提供した。また、SNCN 事務局を日本キャンプ協会内に設置し、事務局機能をボランティアに担い、提供した。

Special Needs Camp Network(SNCN) ウェブサイト

URL : <http://sn-camp-net.wixsite.com/sn-camp-net>

法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

1. 諸会議

会議名	回数	日程・会場等		
総会	2	6月4日・3月11日		
理事会	3	5月14日・6月4日(臨時)・3月11日		
監査	1	5月12日		
執行理事会	7	4月22日・5月14日(特別)・6月10日・7月19日 9月22日・12月15日・1月29日		
ブロック会議	8	全ブロック	6月5日・3月12日	東京(NYC)
		近畿ブロック	7月23日	奈良県奈良市
		中国・四国ブロック	9月10日～11日	岡山県久米郡
		関東ブロック	9月25日	神奈川県南足柄市
		中部・北陸ブロック	10月1日～2日	長野県浪合村
		北海道・東北ブロック	10月1日	山形県寒河江市
		九州・沖縄ブロック	2月19日	宮崎県宮崎市

設立 50 周年記念事業関連委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等	
実行委員会	2	10月20日・11月27日	
研修・研究部会	3	6月22日・9月22日・10月28日	
白書部会	1	10月28日	
イベント部会	9	4月28日・5月16日・6月25日・7月29日・8月9日 8月14日・9月11日・10月2日・10月28日 ※会場下見、業者との打合せ含む	
ホスピタリティ部会	3	8月17日・10月9日・10月28日	
ICDC 部会	1	7月31日	
グッズ部会	1	10月28日	

運営委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等
ビジョン策定委員会	3	7月4日・8月22日・9月26日
CAMPING 編集タスク	3	6月24日・12月9日・3月17日
指導者養成委員会	2	10月21日・1月27日
キャンプミーティングタスク	2	4月12日・2月16日
地域連携委員会	2	5月14日・2月25日
総務委員会	9	4月15日(AOCC 予算会議)・4月22日 5月14日・6月10日・7月19日・9月22日 12月15日・1月29日(執行理事会と同時開催) 3月2日

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
事務局会議	—	随時
出会いと体験の森へ実行委員会	1	3月22日 日本YMCA同盟会館
中央青少年団体連絡協議会 中青連ラウンドテーブル実行委員会	2	12月21日 修養団ビル 2月8日 日本青年館虎ノ門事務所

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
所長会	10	4月5日・5月20日・7月7日・9月13日・10月6日 11月17日・2月3日・3月2日・3月22日
主席会	4	4月5日・6月28日・10月12日・2月28日
県庁合同会議	1	4月5日
安全対策委員会	3	6月18日・10月20日・1月25日
外部評価委員会	1	3月10日(評価伝達式)
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	1	11月10日～11日
静青施協合同職員研修会	1	1月12日～13日
地域懇談会	1	11月13日
食堂定期協議会	4	7月18日・9月12日・3月4日・3月15日

2. Monthly Report

理事、監事、運営委員、都道府県キャンプ協会事務局及びその運営に関わる方を対象に、本会の運営状況をはじめキャンプに関連する情報を提供することを目的に Monthly Report を月1回(計12回)発行した。

3. 各種団体等への協力・共催・後援

協力・後援、協賛

団体名	事業名	種別
石川県キャンプ協会	S Y D ボランティア奨励賞(第 11 回)	後援
(公財)修養団	S Y D きらめきメッセージ全国コンクール(第 2 回)	後援
(公財)修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン(出張講座／課外授業)	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ	後援
(公財)修養団	東日本大震災仮設住宅訪問 青少年ふれあいボランティア	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フォーラム	後援
(公財)修養団	第 22 回キャンプインストラクター養成講習会	後援
学研エデュケーショナル	学研塾グループ・サマーキャンプ	後援
石川県キャンプ協会	キャンプスタッフ養成講習会	後援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	第 32 回環太平洋学生キャンプ	後援
(公財)横浜市体育協会	平成 28 年度横浜市アウトドアリーダー講座	後援
(NPO)東京都キャンプ協会	東京キャンプフェスティバル 2016	後援
(公財)日本教育科学研究所	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
Wilderness Education Association Japan	leave No Trace Cross Japan	後援
(公財)日本サイクリング協会	Mt. FUJI エコサイクリング 2016 ～富士五湖サイクルツアー～	後援
岩手県キャンプ協会	第 43 回キャンプインストラクター養成講習会 及び平成 28 年度親子キャンプ	後援
秋田県キャンプ協会	ファミリーキャンプ夏の陣 2016	後援
(公財)日本レクリエーション協会	第 70 回全国レクリエーション大会 in 岐阜	協力
大阪府キャンプ協会	2016 年度「リスクマネジメント・セミナー」	後援
(NPO)千葉県キャンプ協会	ちばシティ サバイバルキャンプ	後援
(公財)日本サイクリング協会	バイク東京 2016	後援
石川県キャンプ協会	いしかわキャンプフェスティバル	後援
福岡県キャンプ協会	みんなでキャンプを楽しもう	後援
宮城県キャンプ協会	はっちゃれキャンプ 2016	後援
宮崎県キャンプ協会	平成 28 年度九州キャンプミーティング	後援
秋田県キャンプ協会	チャレンジスノウキャンプ 2017	後援
鹿児島県キャンプ協会	平成 28 年度アウトドア活動セミナー	後援

職員の派遣

日程	団体	内容	派遣職員
5月3日～5日	石川県キャンプ協会	キャンプインストラクター 養成講習会	林健児郎

4. 日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。

なお、この年度は経理業務の効率化を図るため、会計システムのクラウド化を行った。これにより指定管理施設との経理業務が統一され、同時に作業の簡略化が図れた。

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／収益事業の運営管理／
助成金事務／人事管理／諸規定(程)の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

本報告書内の法人名・各人の役職等は、各事業実施当時のものです。

永年継続会員一覧【敬称略・都道府県ごと 50 音順】

(2016 年 10 月 28 日現在)

北海道 3 名

片岡 裕之
木村 謙治
三宅 千世子

青森県 2 名

稲村 晃一
太田 修徳

岩手県 1 名

永本 一志

宮城県 4 名

江刺 善之
鎌田 久志
木村 博
武田 貴子

秋田県 6 名

上村 清一
佐藤 夙
高橋 正規
滝内 金悦
塚田 雅人
逸見 博幸

山形県 4 名

五十嵐 和夫
金子 雅彦
佐藤 真隆
戸田 芳雄

福島県 8 名

岩見 豊一
笠原 憲昭
国馬 善郎
佐藤 喜也
四家 博三郎
土田 功
平栗 辰也
和合 治幸

茨城県 1 名

片岡 達郎

栃木県 10 名

石塚 英彦
宇山 雅之
大谷津 忠一
五戸 孝
齋藤 猛
田村 修也
檜山 達夫
船田 実
星野 典雄
渡辺 一

群馬県 4 名

小野里 清治
金井 寛美
角貝 宏明
中野 修美

埼玉県 22 名

石橋 典夫
大野 宣子
大橋 由美子
小倉 利美
落合 優
金子 和正
講内 靖夫
小沼 俊文
小船 貢一郎
佐藤 幸雄
佐怒賀 正
清水 幸一
清水 豊
鈴木 茂
千島 貢
仲條 文代
西原 隆一
野沢 巖
星野 敏男
堀口 芳嗣
町田 恒雄
向田 吉彦

千葉県 28 名

青山 修三

赤澤 晃

浅見 眞一
荒井 眞澄
飯岡 雅行
井上 忠夫
上田 真智代
大垣 正明
大木 潤子
大澤 真美
小笠原 憲二
加川 美奈子
神谷 明宏
亀谷 新一
佐藤 清一
篠塚 博道
田岡 誓
高橋 朱海
土屋 邦夫
中島 一郎
中山 雅子
成田 和敏
花島 順久
福井 直子
福嶋 元生
村田 順儀
望月 力智
百瀬 修至

神奈川県 17 名

伊藤 輝之
遠藤 美弥
国原 伸郎
小林 新治朗
榊原 正子
作野 元宏
座間 豊
鈴木 秀雄
外川 重信
田中 智子
土屋 勝
富岡 幸生
英 径夫
藤野 和子
山名 勇

由利 幸一

吉澤 和雄

東京都 72 名

秋元 浩子
浅沼 和洋
新井 雅晶
飯田 弘
池田 雅彦
石井 達馬
石井 秀明
石川 勝彦
板橋 民樹
内田 司朗
浦野 勇
江花 秀一
大石 示朗
小倉 正明
小野沢 清史
折笠 一寿
勝山 景之
神谷 礼子
木村 一
久保 葉子
熊澤 桂子
栗部 秀道
小泉 和史
桜井 義維英
佐藤 清隆
佐藤 初雄
佐野 真一
澤内 隆
椎名 美幸
塩野 博雄
柴田 俊明
島 尚士
清水 慶子
鈴木 あけの
瀬戸 英子
高井 豊
高木 信明
高橋 紀子
高橋 久雄
高橋 紘

高橋 裕子
高林 千尋
田中 祥子
谷 正之
谷川 浩通
鶴田 光男
中能 孝則
名取 みゆき
奈良岡 秀紀
西田 徹
羽生沢 栄柴
林 寿夫
早船 勇夫
原田 一志
半田 佐知子
廣瀬 清
福井 正仁
福田 智雄
藤井 克彦
藤井 雅子
藤江 徳子
正木 操
松本 由伎子
丸岡 紳晃
三好 千鶴
師岡 文男
山口 芳一
山田 井佐子
山田 哲雄
山田 裕一
吉田 千恵子
藁谷 久雄

新潟県 6名

愛甲 雅子
飯田 久弘
佐藤 圭輔
高橋 欣弘
照井 雅嘉
野村 牧男

富山県 11名

飛鳥 寛恵
石上 隆宏
奥川 明夫
清水 雅己
田口 松男

田尻 志保範
津田 昭明
寺井 清
土居 文雄
柳瀬 安典
弓部 裕明

石川県 1名

水沢 利栄

長野県 4名

佐藤 由姫
田中 みつ子
原 安彦
平野 吉直

岐阜県 5名

鹿嶋 昌幸
河島 正弘
田中 光照
尾藤 政勇
和田 耕治

静岡県 3名

太田 恒義
利根川 伸
山川 信幸

愛知県 32名

阿部 泰広
石川 幸生
伊藤 昭治
伊藤 茂生
伊保 允雄
太田 誠雄
太田 正孝
奥村 和夫
長村 勝利
神谷 孝彦
川口 一郎
小出 一孝
近藤 文男
坂本 淳子
澤 幹雄
澤木 三枝子
清水 勝之
下村 真也
鈴木 純司

舘野 尚文
萩原 峰雄
長谷川 清孝
羽根田 直基
藤井 三弥子
舟橋 弘
間瀬 孝一
松井 實一
三浦 幸弘
武藤 正美
安井 三郎
山本 徹
若松 義則

三重県 12名

味香 祥平
市川 直樹
小川 靖史
加藤 美香
佐野 守
佐橋 眞二
佐脇 重喜
佐脇 浩子
高藤 宏明
中野 隆夫
前田 幸治
山口 禎久

滋賀県 8名

宇高 史昭
大西 吉治
藁浦 好隆
谷口 岩人
寺村 義伸
中野 友博
祝部 康二
前山 亨

京都府 26名

赤利 勝正
阿部 邦義
岡本 康裕
岡本 俊則
岡本 ヒロシ
小川 喜代和
奥村 正治
檜 智子

神崎 清一
黒木 保博
古島 光司
小西 浩嗣
小山 純孝
櫻井 守
白杉 浩子
末吉 央伯
高谷 泰市
出店 知之
遠山 適男
中野 進
濱野 一彦
福田 博明
前田 健世
森田 みどり
山下 秀樹
吉田 穂積

大阪府 17名

一村 小百合
江島 隆治
片岡 弘尚
酒井 哲雄
清家 昌弘
高橋 幸久
田中 修
西村 房雄
波多野 康晴
福井 玲
松尾 博之
三宅 孝昭
村川 建一
森園 忠勝
森長 完治
門林 利夫
吉原 一夫

兵庫県 24名

天野 宏
池辺 美保子
江上 佳宏
小畑 孝二
甲斐 知彦
柏原 信也
川原 敏男
北村 英三

清末 常夫
久保 順正
桑田 千照
佐藤 知行
清水 勲夫
新庄 和文
住吉 章宏
高見 彰
田中 一行
田中 誉人
永富 和保
藤枝 重之
三木 秀人
宮崎 良雄
山田 誠
吉田 久美

奈良県 3名

岩田 泰定
谷本 哲郎
藤井 博

島根県 6名

池田 昴志
入江 勝仁
高木 茂
中村 富美恵
野村 基
安田 栄治

岡山県 1名

岡本 耕治

広島県 6名

板倉 陽子
田中 一裕
鍋島 一仁
藤井 寛紀
山口 浩司
和田 芳治

山口県 15名

石川 雅司
落合 廣美
川口 博行
河内 満
信田 百合夫
島ノ江 清

高田 和彦
田村 和郎
津田 浩宜
永山 康昭
原田 明
福田 敏勝
北條 信章
南 昌宏
山下 茂生

徳島県 2名

伊勢 達郎
多田 泰国

香川県 7名

今出 保
笠井 憲二
新池 保雄
新池 レイ子
豊田 佐々雄
細川 勝信
好井 智子

福岡県 15名

飯野 千鶴子
岩本 敬之
大橋 光雄
尾花 昭一
近藤 信幸
硯川 真旬
瀬川 正志
橘園 一
田中 幸男
土居 元
砥綿 敬二
仲西 茂
松岡 正世
宮野 哲美
吉村 芳孝

佐賀県 3名

高橋 幸信
土井 眞信
吉浦 啓一郎

長崎県 2名

稲田 俊彦
山元 敏郎

熊本県 6名

池永 祐二
岡田 壯之祐
河上 強
堤 弘雄
二ッ木 一男
森 近

宮崎県 3名

寺田 太郎
南園 芳雄
矢野 弘善

鹿児島県 2名

河嶋 正和
山田 豊裕

沖縄県 4名

玉城 智彦
知念 一郎
宮里 勉
山内 源徳

その他 65名

青木 伸廣
明石 和子
安倍 貞夫
新谷 勇郎
池田 立志
池永 治
岩口 仁
大谷 能久
岡村 哲夫
岡安 一之
小川 博
兼子 賢一
川島 久一
川畑 智子
河村 三恵
桑田 信博
小泉 紀雄
小井戸 哲夫
古賀 延昌
小島 勝一
斎藤 博
佐川 文夫
佐藤 浩章

佐野 豪
島崎 修
島田 武彦
鈴木 郁夫
鈴木 博和
高須 良郎
高瀬 隆啓
高田 俊彦
高橋 正憲
高林 潔
竹谷 早希子
辰巳 幸子
田中 秀子
東條 毅
戸田 安信
友岡 善寛
仲 祥介
鳴田 東光
西垣 享子
丹羽 俊和
野間口 英敏
萩原 波子
林 金次郎
半谷 謙寿
檜原 龍彦
星野 勝二郎
松本 雅道
丸山 正
宮崎 冴子
宮野 繁美
武藤 和生
武藤 佐栄子
村上 正孝
八木沢 まち子
矢部 剛
山田 守
山田 竜一郎
山本 英男
吉井 貞夫
吉江 正一
吉田 真琴
渡部 理教

(敬称略)

以上 471 名

公益社団法人日本キャンプ協会 2016・2017 年度 役員

(2017 年 3 月 31 日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	元頌栄保育学院学院長
顧問	齊藤 保夫	元城西大学教授
顧問	富岡 幸生	元(一財)日本健康開発財団 専任講師
顧問	野間口 英敏	東海大学 名誉教授
顧問	長谷川 純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長
顧問	野澤 巖	元埼玉大学 教授
顧問	永吉 宏英	元大阪体育大学 学長
顧問	石田 易司	桃山学院大学 副学長
顧問	吉田 大郎	(公社)日本キャンプ協会 事務局長
会長	星野 敏男	明治大学 教授
副会長	鳥井 信吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副会長
専務理事	神崎 清一	(公財)日本 YMCA 同盟 理事
常務理事	平田 裕一	至学館大学 副学長
常務理事	藤枝 隆	東京農業大学 入試センター長
理事	木村 公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長
理事	重住 恭子	(公社)ガールスカウト日本連盟 公認 G.S トレーナー
理事	鈴木 由美	女子美術大学兼任講師
理事	高野 孝子	(NPO)エコプラス 代表理事
理事	高橋 聡美	防衛医科大学校 教授(医師)
理事	野口 和行	慶應義塾大学 准教授
理事	針ヶ谷 雅子	明治大学 兼任講師
理事	平野 吉直	信州大学 副学長
理事	柳下 史織	(公財)東京 YWCA 青少年育成事業部マネージャー
理事	逸見 博幸	秋田県キャンプ協会 副会長 (東北・北海道)
理事	分島 修一	神奈川県キャンプ協会 理事 (関東)
理事	吉田 理史	長野県キャンプ協会 理事 (中部・北陸)
理事	高見 彰	兵庫県キャンプ協会 会長 (近畿)
理事	仲野 寛	島根県キャンプ協会 会長 (中国・四国)
理事	上野 隆生	大分県キャンプ協会 理事 (九州・沖縄)
理事 以上 20 人		
監事	井上 透	岐阜女子大学 教授
監事	小田原 一記	(公財)日本レクリエーション協会 総務・経理チームマネージャー
監事	佐藤 初雄	(NPO)国際自然大学校 理事長
監事 以上 3 人		

公益社団法人日本キャンプ協会 2016・2017 年度 運営委員

(2017 年 3 月 31 日現在)

ビジョン策定委員会

今井 正裕	(一財)大阪府青少年育成財団 事業部長
小森 伸一	東京学芸大学 准教授
月橋 春美	宇都宮短期大学 教授
野口 和行	慶應義塾大学 准教授
引間 紀江	(独法)国立女性教育会館 専門職員
高見 彰(担当理事)	大阪国際大学 教授

CAMPING 編集タスクチーム

青木 康太朗	国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 研究員
翠尾 由美	麻布子ども中高生プラザ
野口 和行	慶應義塾大学 准教授
山梨 雄一	(公財)東京 YMCA 職員
吉田 理史	(NPO)信州アウトドアプロジェクト
吉松 梓	駿河台大学 助教
平田 裕一(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

指導者養成委員会

鈴木 由美	女子美術大学 非常勤講師
富山 浩三	大阪体育大学 教授
中村 正雄	大東文化大学 教授
神崎 清一(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 専務理事

日本キャンプミーティング・タスクチーム

青木 康太朗	国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 研究員
遠藤 知里	常葉学園短期大学 准教授
永吉 英記	国士舘大学 准教授
渡邊 仁	筑波大学 助教
神崎 清一(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 専務理事

地域連携委員会

村山 昌俊	新潟県キャンプ協会
田丸 良明	石川県キャンプ協会
甲斐 知彦	兵庫県キャンプ協会
大天 嘉行	岡山県キャンプ協会
工藤 福成	大分県キャンプ協会
藤枝 隆(担当理事)	(NPO)東京都キャンプ協会

総務委員会

神崎	清一	(公社)日本キャンプ協会 専務理事
神谷	稔	(NPO)埼玉県キャンプ協会 理事
藤枝	隆(担当理事)	(公社)日本キャンプ協会 常務理事

設立 50 周年記念事業に関する委員会・作業部会等

(2016 年 10 月 28 日現在)

日本キャンプ協会設立 50 周年記念事業組織委員会

委員長	星野 敏男	公益社団法人日本キャンプ協会 会長
副委員長	師岡 文男	AOCF 前会長・名誉顧問/ICF 理事(AOCF 担当)
委員	田中 壮一郎	独立行政法人国立青少年教育振興機構 理事長
	島田 茂	公益財団法人日本 YMCA 同盟 総主事
	川戸 れい子	公益財団法人東京 YWCA 代表理事
	奥島 孝康	公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 理事長
	浅野 万里子	公益社団法人ガールスカウト日本連盟 会長
	井上 成美	一般社団法人日本ウオーキング協会 常務理事
	山西 哲郎	公益社団法人日本オリエンテーリング協会 会長
	加藤 元彦	公益財団法人日本サイクリング協会 副会長
	水野 宰	一般財団法人日本ユースホステル協会 理事長
	小西 亘	公益財団法人日本レクリエーション協会 理事長
	明瀬 一祐	一般社団法人日本オートキャンプ協会 会長
	西澤 信雄	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会 代表理事
	永吉 宏英	日本野外教育学会 会長
	斉藤 泰幸	日本アウトドアネットワーク(JON) 運営委員長
	佐藤 初雄	NPO 法人自然体験活動推進協議会(CONE) 代表理事
	針ヶ谷 雅子	公益社団法人日本キャンプ協会 理事(50 周年事業担当)
	藤枝 隆	公益社団法人日本キャンプ協会 常務理事
	吉田 大郎	公益社団法人日本キャンプ協会 事務局長
監 事	村松 真哉	公益財団法人ハーモニィセンター 事務局長
	宗像 弘行	一般財団法人日本ユースホステル協会 総務課長
顧 問	石田 易司	公益社団法人日本キャンプ協会 顧問/AOCF 副会長
	田中 祥子	ICF 前副会長/AOCF 名誉顧問

研究・研修部会

岡田 成弘	仙台大学 講師	※部会長
小森 伸一	東京学芸大学 准教授	
富山 浩三	大阪体育大学 教授	
濱谷 弘志	北海道教育大学岩見沢校 准教授	
渡邊 仁	筑波大学 助教	

キャンプ白書部会

多田 聡	明治大学 教授 ※部会長
青木 康太朗	(独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員
伊原 久美子	大阪体育大学 准教授
甲斐 知彦	関西学院大学 教授
藤江 龍	(独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員
柳下 史織	(公財)東京 YWCA 青少年育成事業部教育キャンプ課 マネージャー

イベント部会

熊澤 桂子	東京教育専門学校 専任講師 ※部会長
小林 秀雄	東京 YWCA 野尻キャンプリーター
清水 幸一	四国学院大学 教授
村井 伸二	玉川大学 助教
村松 真哉	(公財)ハーモニィセンター 事務局長

ホスピタリティ部会

花田 道子	九州共立大学 助手 ※部会長
江川 潤	神田外国語大学 特任講師
久野 愛子	フリーランス
鈴木 かなえ	桐朋女子中学高等学校 非常勤講師
野澤 順子	グローバルエリートアカデミー(株) 代ゼミサテライン予備校成田校室長

ICDC(International Camp Director Course)部会

加藤 綾音	(NPO)S-space 本部／野外活動担当 ※部会長
水村 賢治	フリーランス

グッズ部会

太田 正義	静岡県立朝霧野外活動センターコーディネーター ※部会長
中神 真紀子	(NPO)子どもの体験活動サポートセンター
前澤 桂子	(NPO)子どもの体験活動サポートセンター

アドバイザー

高野 孝子	(公社)日本キャンプ協会 理事・(NPO)エコプラス 代表理事
高橋 伸	AOCF 前事務局長・国際基督教大学講師
田中 祥子	ICF 前副会長／AOCF 名誉顧問

集いの時間担当

工藤 福成	(公社)日本キャンプ協会 地域連携委員会 運営委員
大天 嘉行	(公社)日本キャンプ協会 地域連携委員会 運営委員

事務局職員

(2017 年 3 月 31 日現在)

事務局 長	吉田 大郎 (全体統括)
事務局 次長	秋山 千草 (法人事務)
主 事	吉野 宏美 (公 1 事業)
主 事	前田 將太 (公 2 事業)
主 事	五月女 真弓 (公 1 事業)
主 事	林 健児郎 (公 3 事業)

静岡県立朝霧野外活動センター職員

(2017 年 3 月 31 日現在)

所 長	太田 恒義	指 導 職	保科 哲也
副 所 長	四條 忠男	指 導 職	立林 雅貴
コーディネーター	太田 正義	指 導 職	北條 友加里
事業課 長	櫻井 良樹	指 導 職	鈴木 みさえ
指 導 職	向島 克明	アルバイト	杉山 奈都子
指 導 職	小西 岳勝		



第6回 アジア・オセアニア・キャンプ大会